

令和8年度 第1回 無電柱化推進のあり方検討委員会
議事要旨

1. 日時：令和8年4月20日（月）10：00～11：15
2. 場所：尚友会館 7階 会議室（WEB会議併用）
3. 要旨：

【第3次無電柱化推進計画（素案）について：質疑応答】

- 通学路に関する取組は非常に良い内容だと思っている。電柱を撤去するだけでは、道路によっては車のスピードが上がる可能性があるため、ゾーン30プラスの中で物理的な装置も含めた対応をしてほしい。通学路の定義は学校ごとに大きく異なっており、非常に限定的な場合もあれば、生活道路全体を含めている場合もある。今回の計画でいう通学路は、厳密な定義ではなく「通学に使われる道」程度の一般的な意味で柔軟に考えた方がよい。ゾーン30プラスの55地区の無電柱化について、既にゾーン30プラスとなっている既設地区で無電柱化を進める場合は、物理的デバイスの設置など既存計画の見直しが必要になるため、そのための支援がないと手が挙がりにくいのではないかと感じている。（久保田委員）
- 通学路の定義が明確でないことは認識している。全国の通学路は約20万kmあると言われており、一方で緊急輸送道路10万kmに比べ定義も幅広く、今後の進め方が課題だと考えている。今回対象としているのは、ゾーン30プラスを提示させていただいたが、その中でも、歩道がなく、車道幅員が5.5メートル未満の通学に使われている道路についてはしっかりと計画をたて電柱を抜く、そして新設電柱の占用制限も含めて計画的に進めていきたい。電柱を抜いて車両速度が上がらないよう、既存のゾーン30の計画を見直し、新設電柱の占用制限を徹底していきたいと考えている。いずれにしても歩道が無く、車道幅員の狭い道路で電柱がさらに増加していくことが無いよう、徹底して抑制していきたいと考えている。生活道路では地上機器の設置場所など難しい点もあるが、電線管理者と調整しながら進めたい。交通安全上、急ぐべきところをスピードアップして取り組んでいく。（道路局 水野課長）
- 参考資料1の3ページにある歩道がなく狭い83地区を抽出し、重点的に進めていくという点は良いが、どこを指定するのかは学校次第という面もある。歩道が無い通学路を子ども達が実際に通ってみても、必ずしもそこが危険で通れないというわけでもなく、状況は様々である。学校の通学路指定次第では、歩道がない危険な場所が通学路に含まれていない場合もあると思う。危険な場所から優先的に対応していることが伝わる説明があるとよい。本来は児童数や交通量なども考慮できるとよいと思う。（屋井委員長）

- 子どもが実際にどこを歩いているか、道路構造や無電柱化の状況などの詳細データをまだ十分に持っていない。第3次計画で通学路と子どもの安全を打ち出したことを踏まえ、今後データを収集していきたい。地域と調整しながら、重点的に進める場所を整理していきたい。今回は現時点で把握しているゾーン30を基に目標を設定した。(道路局 水野課長)
- 通学路を「ここ」と明確に決めることは難しい場合が多い。子どもと保護者が実際に歩いて、安全だと確認しながら決めることが重要だと思っている。両側に高い塀で挟まれた道など、子どもがどこを歩けば安全か分からないケースもある。工事現場や災害などで状況が変わるため、固定的に考えない方がよい。防災マップ作成の取組に、電柱の位置や通学時に困る場所といった視点も入れるとよいのではないかと。(池上委員)
- 通学路には電柱以外にも様々な事故リスクがあると考えている。千葉県八街市の事故を受け、警察や学校関係者と現地確認を行ってきた。無電柱化についても、どこまで学校関係者の協力を得られるのか今後の検討事項だが、防災や安全など複数の視点を取り入れて進めていきたい。(道路局 水野課長)
- 八潮市の例で、電柱の維持管理確認という記述は電柱がある前提の話に見える。地下に何があるか分かっておらず、地下の管理ができていないことの方が問題ではないかと感じている。地下の管理が十分でないことが事故につながった可能性がある。自身の経験でも、都道の地下にあるはずのガス管が宅地の地下から出てきたことがあった。移設は都議会で審議すべき事項で、都がいかに地下にある公的埋設物を把握できていないかの証拠となる事例である。巢鴨の無電柱化ではスキャンにより地下を詳細に把握していた。掘削時には簡易でもよいので地下にあるものを記録しておくべきだと思う。モデル地区を設けるなどして地下管理を進めないと、海外に遅れを取るのではないかと。(松原委員)
- 埼玉県八潮市の事故を踏まえて、地下空間を今後どう考えていくかというのは、非常に重い問題だと受け止めている。地下構造物は目に見えず、点検も難しい。これまで地下占用物は占用者任せで、道路管理者として十分整理してこなかった。その反省から道路法改正案を閣議決定し、今後審議される予定である。地下、地上を問わず、占用物の情報をデータとして蓄積していきたい。電柱についても位置情報を電子的に把握できていないため、今後整理していきたい。民地に立つ電柱の情報共有も課題だと考えている。老朽化対応と無電柱化、地下管理をあわせて進めていきたい。(道路局 水野課長)
- 八潮市事故を受け、道路法改正を進めている。今後は地下占用工事の完了後に竣工図や位置情報を提出してもらうことを義務付ける。地下空間の情報を集めていける仕組みにしていきたい。(道路局 野口課長)
- 地下に所有者が分からない管が多数ある状況をどう整理しているのか。(松原委員)
- 防空壕や戦後の施設など、由来不明のものが地下に残っている場合がある。所有者不明の場合は、道路の一部として管理しているのが実情である。今後は工事完了時

に竣工図等の提出を法律で義務づけていくため、道路占用工事のたびに見つかった情報を少しずつ把握していくことが重要だと考えている。(道路局 野口課長)

○道路陥没と電柱管理の関係が分かる説明が不足していると感じた。無電柱化が地下の危険性を高めるという誤解を与えないことが重要だと思う。地下点検や構造改善とあわせて無電柱化を進めることで、道路空間全体の改善につながるのではないか。今回の計画がそのきっかけになるとよいと考えている。(屋井委員長)

●下水道管路の全国調査が進められており、老朽化判定を急ぐ必要があると聞いている。そういったものと合わせて新設されるのであれば、無電柱化を進めるべきであり、下水道だけでなく自転車走行空間整備など道路空間の再編といった機会に無電柱化を進められるように取り組んで行きたい。一方で、道路拡幅と無電柱化の同時施工は約4割にとどまっている。地方自治体道路での同時施工を徹底して行きたい。(道路局 水野課長)

○拡幅したのに無電柱化が行われなかった事例は残念だと感じている。(屋井委員長)

○観光について管理者の違いが資料で見える点はあるがたい。資料1・資料2と参考資料1～3の関係が分かりにくいと感じている。低コスト化手法が参考資料にまとまっており、本文だけ読むと伝わりにくいのではないか。これらの資料がどのように配布され、どう読まれるのかが気になっている。(天野委員)

●側溝配線や地上配線を今回初めて計画本文に位置づけた。本文の中で構造やコスト削減の取組を記載している。モデル事業や手引き作成などを通じて普及を進めていく。(道路局 田中分析官)

○参考資料の中で今回新たに追加された部分があるか。(屋井委員長)

●同時施工の実施率データと、直轄国道における電柱増減データを今回追加した。(道路局 田中分析官)

○過去資料との関係が分かるよう、資料内で整理するとよい。参考資料3について、出典が分かるように右肩に注釈を記載すること(屋井委員長)

○整理完了率を目標に設定した点は具体的でよいと思っている。これまで整備が完了しなかった理由がもう少し分かる形で示されるとよいと感じた。(鈴置委員)

●整備までには合意形成やコスト、地上機器配置など様々な課題がある。得られた知見を整理し、今後の促進に活かしていきたい。(道路局 田中分析官)

○技術検討会等で課題整理は進められてきたと認識している。計画案については概ね了承されたと考えている。本日意見を踏まえた今後の取扱いについては委員長一任としたい。(屋井委員長)

○資料2に目次がなく、全体構成が分かりにくいと感じている。章構成が分かる一覧資料があると理解しやすいと思う。(松原委員)

●分かりやすくなるよう工夫したい。(道路局 田中分析官)

(以上)